

20110328

2011年3月28日　日本テレビ 定例記者会見

《 全文 》

<発表>

細川知正社長：はじめに、私どもにとって大変に悲しいお知らせを致します。日本テレビ放送網株式会社 代表取締役会長 氏家齊一郎は、3月28日午前6時10分、多臓器不全のため、入院先の都内の病院で死去致しました。84歳でした。告別式はご遺族のみにて行い、後日、お別れの会を執り行う予定です。日時等が決まり次第、追ってお知らせ致します。なお、ご遺族の固いご意志により、弔問及び供花、供物、香典、弔電等のご挨拶は一切ご辞退申し上げます。

続いて、東日本大震災に対する24時間テレビの支援についてお知らせします。日本テレビ等、全国31の放送局で組織する「24時間テレビ」チャリティー委員会は、3月11日に発生した東日本大震災の被災者を支援するため、インターネット募金を翌12日に開始致しました。現状において関係者に一番ご迷惑をお掛けしない募金の形式と考えています。現在、ゆうちょ銀行の振替口座と合わせて、28日午前11時現在で6億6,003万9,920円の募金をお預かりしています。さらに、全国の日本テレビネットワーク各社においても被災者支援の募金活動を行っております。併せてご協力をお願い致します。支援の第1弾として、特に被害の大きかった岩手県、宮城県、福島県に対して直ちに義援金を贈らせて頂きます。今後については、全国の被災された地域の状況に鑑みながら、幅広く追加支援を検討しております。決まり次第ご報告させて頂きます。

また、日本テレビとネットワーク各社は、被災された皆様と日本中の皆様に元気になって頂きたいとの思いから「がんばろうニッポン」エールキャンペーンを3月20日から始めました。番組に出演するタレントさんやアナウンサーから皆様への「エール」を3秒スポットCMの形で放送し、生の“ニッポンへのエール”をお伝えして参ります。

そして、3月29日に大阪・長居スタジアムにて開催されるサッカーの「東北地方太平洋沖地震復興支援チャリティーマッチ がんばろうニッポン！」を全国生中継致します。日本サッカー協会と日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）、また日本代表やJリーグの選手が被災地復興支援のために行う今回のチャリティ

一マッチは、ザッケローニ監督率いる日本代表と Jリーグ選抜チーム「Jリーグ TEAM AS ONE」の対戦となります。日本テレビではチャリティーマッチを中継する事により、選手たちの思いや支援内容等をより多くの方々に伝え、被災者の皆様に対する日本全国の支援の輪をさらに広げたいと考えています。

震災がありました時期の視聴率について論評は基本的に避けますが、震災直後からの報道については内容、視聴率と一定の評価を頂けたと感じています。

記者：今回の震災発生から 2 週間以上が経ち、ここまで報道を振り返っての感想をお願いします。

細川社長：私どもは報道機関として総力を挙げて東日本大震災の取材報道を行って参りました。ニュースに関しては日本テレビを中心とした NNN 系列というネットワーク全体で、被害が大きかった宮城、岩手、福島を中心に取材面と物資面の双方で支援を行っています。

大久保好男取締役：日本テレビ系列は総力を挙げてこの大震災取材報道に取り組み、日本テレビから約 70 人の取材団を現地に派遣したほか、ネットワーク全体では合わせて約 200 人の応援体制で初動の取材報道を行いました。被害の大きかった地域では取材移動の手段、食料や宿泊施設の確保等、様々な難しい問題がありましたが、ネットワーク各社で連絡を取りながら相互協力をして報道機関としての任務を果たす事ができたと考えています。緊急報道特別番組も長時間に渡り編成、放送致しました。震災発生当初の 3 日間は全ての CM を休止し、人命の安全確保を最重視した報道特別番組を継続して放送しました。

13 日夕方の時点で津波警報、津波注意報が全て解除されたので、その時点を 1 つのタイミングと捉え、社内で十分に検討した結果、一部のレギュラー番組、CM 等の放送を再開し、順次通常の番組に戻しました。そして、情報番組は 14 日朝から、ゴールデンタイムやプライムタイムの番組については 15 日 19 時から通常の編成に復帰しました。しかし、震災に関連した重大な緊急事態が発生した場合にレギュラー番組の放送中でもカットインして緊急特番を組む方針は、現在も堅持しています。ゴールデンタイム、プライムタイムを通常編成にした後も震度 6 強の地震や、菅総理の臨時会見等があり、その際は緊急番組編成をしています。

日本テレビは引き続き、できるだけ全国の皆様に元気を出して頂ける番組を放送すると同時に、報道機関として伝えるべき事態は遅滞なく緊急特番を組む姿勢も堅持して参ります。

記者：震災後にどの段階で通常の娛樂番組を放送すべきか、どのように判断したのでしょうか。

細川社長：阪神淡路大震災の際、大震災発生直後の状況を視聴し続けるのが非常に辛いという事が、視聴者の皆様の反応としてありました。一方で救援活動が続いていたものの津波警報と注意報が解除されたため、その段階で日本テレビは一部を通常の番組編成に戻しました。しかし通常の番組でも震災に関連した内容をお伝えしているほか、収録された番組でも視聴者の皆様の感情にそぐわない内容であれば編集をする、内容を差し替える等、配慮をしています。

大久保取締役：被災者、あるいは一般の視聴者の皆様として受け入れ難い番組がないように、事前収録した内容は全てチェックし、できれば皆様に元気を出して頂けるように、受け入れて頂けるように必要であれば再編集致しました。また、そもそも番組としてこの時期に放送すべきものでないと判断したものについては放送を取りやめ、新たな番組を編成、製作しています。今もその状況は変わらず、できるだけ多くの皆様に安心してご覧頂ける番組となるよう、努力を続けて参ります。

記者：阪神淡路大震災の報道経験から、今回の大震災で気をつけた事があれば教えて下さい。

大久保取締役：阪神淡路大震災の報道経験は様々な形、例えば初動取材の人員をできるだけ多く投入する、取材物資を拡充する等で教訓として活きています。特に放送内容については、阪神淡路大震災の際に一部のテレビメディアで被災者の感情に配慮が足りなかった部分等があったと聞いていますので、取材においても放送においても被災者の皆様や関係者の皆様に十分に配慮し、十分に注意を払いながら、進めています。

記者：CMも通常に放送される中、AC ジャパンの広告量が引き続き多い印象があります。この状態はいつ頃まで続く見通しでしょうか。

細川社長：当初 AC ジャパンの CM の種類が限定されていた事から、同じ内容を繰り返し観ている印象を視聴者の皆様が受けられたのだと思います。番組等を提供されるスポンサー企業のご意向によりますが、今週末までにはほぼ 7 割を超えるスポンサー企業が通常の CM に戻される見通しです。一方で、仮に AC ジャパンの CM が約 2 割あった場合、全 CM 量の 2 割を出稿されるスポンサー企業

は他にありませんので、どうしても AC ジャパンが 1 番目立ちますし、こうした形態がまだ続く可能性はあります。

記者：AC ジャパンの CM 量が結果的に多くなってしまった事で、視聴者に対する工夫等はありましたか。

細川社長：視聴者の皆様からはいろいろなご意見を頂いています。AC ジャパンは大震災被災に沿った内容を増やされているほか、スポンサー企業による大震災に関連する内容の CM 放送も始まっています。非常に大変な状況ですが、被災者の皆様への配慮を致しながら、視聴者の皆様にも違和感のない形にできるだけ早い時期に戻せるよう考えています。

記者：福島の原子力発電所取材の基本方針について教えて下さい。また原発の状況が分かるカメラの映像を最近観ませんが、その理由を教えて下さい。

大久保取締役：日本テレビには原発取材のマニュアルがあり、社内ではそれに基づいて取材をしています。基本的な内容としては、取材陣の安全確保が最優先との方針です。そのため取材陣には放射線量が測れる線量計を必ず持たせておきますし、政府の避難勧告や各種の指示情報も踏まえた上で、安全を確保しつつ最大限の取材をしています。

原発の最初の水素爆発の映像は、その存在によって政府が爆発の事実、それに基づく事故の概要等々について説明に至りました。その意味で非常に報道価値の高いものであったと捉えています。これを撮影したのはネットワークの福島中央テレビのカメラでした。引き続き撮影はしていますが、放送すべきかどうか、その時点での判断になります。また、今回の原発による影響は視聴者の皆様の関心も非常に高いため、報道内容については社内の専門記者、研究機関等の有識者を含め、正確な分析を基に情報を伝える努力をしています。

記者：原発については情報番組もマニュアルに従って取材するのでしょうか。

大久保取締役：情報番組も現地で取材しています。その場合も基本的には報道局が作成した災害等に関する取材マニュアルに従って行動しています。安全を確保しつつ最大限の報道をしていくという姿勢はどの番組においても変わりません。

記者：サッカーのチャリティーマッチに関して、どのようなチャリティーになるのでしょうか。

大久保取締役：今回のチャリティーマッチはJリーグや日本代表のご協力により、この試合の入場料をはじめとした売り上げは基本的に全て被災者支援に使われます。

記者：計画停電等の影響でプロ野球の日程に影響が出ていますが、中継への影響はどうでしょうか。

細川社長：日本テレビは主催者ではなく、中継放送をする立場です。従って決定された開催日程の中で対応する方針です。巨人は4月12日に山口県宇部で開幕戦を迎えますので、開幕の連戦は日本テレビが中継します。

大久保取締役：4月12日は巨人・ヤクルトの開幕戦が山口県宇部で開催される予定で、この試合は中継致します。試合開始から中継できるように工夫していきます。翌13日は福岡県北九州市で巨人・ヤクルトの開幕第2戦があり、19時から中継します。この試合はBS日テレが試合開始から中継しますので、BSも併せてご覧頂ければ視聴者の皆様にはプレーボールから試合終了まで楽しんで頂けると考えています。

その後については、プロ野球の開催日程が最終的に固まっていないと聞いています。東京ドームを使用できるか、夏場の電力需要等、開催日程も詰めの段階に入っていると思います。開催日程が決定された後に中継の予定を検討する必要があると考えています。

記者：ナイターがデーゲームに振り替えられた場合も中継するのでしょうか。

大久保取締役：既にいろいろなスポーツ番組等も編成されていますので、開催日程が決まった後に、放送ができるかと併せて番組編成を検討する事になります。

1. 視聴率の動向と編成戦略

記者：最近の視聴率の動向と編成戦略について、4月改編等に大震災の影響等はあるのか、教えて下さい。

大久保取締役：視聴率は 2 週連続で四冠王を獲得しました。大震災が起きた状況ですので、視聴率について詳細は差し控えます。

4 月期は大幅な番組改編を実施します。朝帯、昼帯の情報系番組を改編しますし、水曜日・土曜日のドラマも改編します。全体としては、元気が出る番組、質の高い番組を視聴者の皆様にお届けしたいと考えています。

記者：新番組でこの時期にふさわしくないとして差替えたもののはありますか。

大久保取締役：4 月の新番組で放送を中止するものはありません。ただ大震災報道のために延期していた番組を放送する関係で、編成全体に影響も出ていますし、大震災の影響で収録が遅れている番組の開始時期を遅らせる可能性は一部にあります。

2. 営業状況と放送外収入の動向

記者：営業状況と放送外収入について、大震災の影響も含めて聞かせて下さい。

細川社長：営業状況への影響は一部にはあります。今期に関しては、大震災発生直後は 3 日間 CM を放映していませんので、減収になる事は確かです。間もなく決算ですので詳細は差し控えますが、大幅増益を見込んでおりました見通しは変わらざるを得ません。

放送外収入の映画事業についても、現在上映中の作品がありますが、映画館の約 3 分の 1 が休業しています。開業している映画館でも集客力が相当落ち込み、ようやく今週から回復してきました。またイベントでは、「レンブラント 光の探求／闇の誘惑」を開催していますが、大震災直後から設備点検等のため臨時休館となり、当初予定していた 12 日から遅れて 26 日に開幕しました。こうした影響は残念ながら出てきます。商品事業でも番組が一時期休止となりましたので、その分は売上がない事になります。こうした事を考慮すると売上が前年同期を超えるかどうかは現段階では分かりません。

そして来期については、タイムセールス、スポットセールス共に上向きであると以前の会見でお伝えしました。現在タイムセールスに関して、番組提供を取りやめるスポンサー企業はありませんが、4 月・5 月のスポットセールスは一部のキャンペーンが中止になる等影響は出ています。これがどの程度回復してくるのか、現段階では把握しきれない部分がありますが、経済全体に対する大

震災の影響が今後出てくると見ています。

3. 地デジの進捗状況

記者：地デジの進捗状況と今後の見通しについてお願ひします。

細川社長：こちらも大震災の影響が全くないとは言えません。被害が集中している岩手、宮城、福島に加えて茨城や千葉にも影響があります。しかし民放連、総務省もそうした課題を乗り越えて7月24日にはデジタル完全移行を達成する方針で進んでいますので、私どもとしても可能な限り協力しながら進めて参ります。

4. その他

記者：大震災報道で一部のキー局が番組のネット同時配信を行いました。日本テレビの方針を教えて下さい。

大久保取締役：私どもの方針としては放送と、ウェブ系でTwitterを中心に、きめ細かく多くの情報を届けられる判断し対応しました。日本テレビは報道特別番組等で十分情報を発信しているとの判断が第一にあります。また放送画面上でも常時文字情報を伝えました。一方で新規のネット同時配信は大量の映像配信をする事になり、緊急時に望ましい形態なのか、必ずしもプラス面ばかりでもないという点を考慮し、日本テレビはTwitterにおいて積極的にテキストデータで震災情報を伝える努力をしました。

石澤顕編成局長：Webでのニュース動画配信については、日本テレビはもともとニュース専門チャンネルの日テレNEWS24のサイトで行っています。今回の大震災特番中のニュース映像も日テレNEWS24で常時配信しています。

記者：情報番組「スッキリ!!」の大震災中継でリポーターが「面白いね」と発言したと聞いていますが、いかがですか。

細川社長：この発言は、中継回線がつながったり断線したりする状況について、現場にいたリポーターが「面白い」と表現したもので、放送に流れていない状態と認識した、いわば私語としての発言ですが、それが結果として放送されました。中継している内容、場所を考慮しますと、この発言がふさわしくない事

は明らかで、大変に遺憾だと思っております。本人に厳重注意を致しました。

(了)